

2020年1月6日(月)

老球の細道518号

エディー・ジョーンズのコーチング・フィロソフィー

会津バスケットボール協会 室井 富仁

信念明けておめでとうございます。

毎年今年の抱負は何にするかと考えたものであるが、退職してからは、これといったものがなくなり、生かされている毎日を一生懸命生きることしか思いつかない。毎日、自分のため、皆のため、そしてバスケットボールのために、自分を磨きながら生きていくしかないと思う。そのうえで去年よりレベルアップした自分になればOK。今年はネズミ年なので「ネズミが塩を引くように生きる」という諺があるが、小さなことをおろそかにせず、小さなことを大切に積み上げながら爺は「老後不安」という荒野に行く。

ところで、昨年のはじめはラグビーに話題をさらわれた。バスケット関係者が紅白歌合戦に出場できるのはいつになるだろう。ラグビーの快進撃のスタートはエディー・ジョーンズという指導者を招いたことが発端だと思う。『コーチングクリニック』2019年12月号に化粧品会社が展開した講演会でのエディー・ジョーンズのリーダーシップ論が掲載されていた。要約すると下記の通りである。バスケットにも共通する原理原則である。

◆勝てるチームを作る3つのポイント

- ・ビジョンを持つ。計画を立てる。選手と良好な関係を築く。
- ・ビジョンがなければチームを奮い立たせることはできない
- ・小柄な日本人の短所を強みに変える戦術を工夫した
- ・特別なことを成し遂げるには、ハードな練習を積み重ねなければならない

◆ストレスと休息が選手を成長させる

- ・「自分はできる」と信じることで、限界だと思っていた以上の力を出すことができる
- ・選手と綿密なコミュニケーションを密にし、良好な関係を構築し、それぞれの強みを見つけてやる
- ・複雑な事象をできるだけシンプルにしてやる。100のミスをしてその中から特に重要な3つを特定し、改善していきただけでチームは良く変わる

◆リーダーには嫌われる勇気が必要

- ・選手を変えるには感情を込めて語りかけなくてはいけない
- ・コーチの厳しさが成立するのは、根底にコーチへの敬意があるから。選手の要望に全力で応えることで敬意を得ることができる。できる限りの努力をすると選手はコーチが行った以上のことをもたらしてくれる。この繰り返しがチームを素晴らしいものにする。

最後に、エディー・ジョーンズは語る、「指導者としての毎日を愛しているということが出来る。なぜなら私は勝利と成功を常に求め、チームの成長を心から願っているからだ」。

私ももう一度言ってみたいセリフである。アクセルをふかさないで、終わってしまう。